

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	令和4年10月28日
評価確定日	令和5年3月7日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902831	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	特定非営利活動法人やすらぎ		
事業所名	やすらぎの杜		
所在地	(237-0077) 神奈川県横須賀市浜見台2丁目14番1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年10月18日	評価結果 市町村受理日	令和5年3月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎの杜は笑顔大切にしています。ご利用者の笑顔の為にも、ご利用者をただ介護される側に置くのではなく、共に考え、共に語り合い、共に笑いあえる関係でいたいと考えています。ご利用者の笑顔が、ご家族、職員へ伝播し、ホームを取り巻く全ての人に笑い声が出るようなホームにしたいと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年10月28日	評価機関 評価決定日	令和5年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は、特定非営利活動法人やすらぎの運営です。同法人は地元出身の有志が地域の声を聴き立ち上げた法人で、平成17年にここ「やすらぎの杜」を開設し、地域への貢献を第一の目標にしています。京浜急行「追浜駅」から徒歩20分程の高台にありますが、地域にあるNPO法人と連携し出来たコミュニティーバス「ハマちゃんバス」(現在は民間企業が運営)を利用して「浜見台2丁目」で下車すると、徒歩2分程の所にあります。
- 介護理念に「笑顔のある生活」を開設当初から掲げ、職員用トイレに「やすらぎの杜の職員としての心得」や「認知症対応の10か条」と共に掲示し、職員への周知を図っています。職員の入れ替わりは少なく、長く勤務している職員が多いため、利用者との関係性も良く「日々元気で笑顔でいること」が実践されています。コロナ禍のため外出行事が制限されていることもあり、毎朝テレビ体操を行い、週2回1時間のケアマネ体操では脳トレゲームで体や頭を使い、心身共に健康を維持できるよう心がけています。
- 職員の研修では、県の産業保健支援センターから職員が来所し、衛生管理・健康管理のほか、職員のメンタルヘルスと事故防止の研修を受けました。また利用者を少ない力で介助する方法を実演しながらの講習があり、代表職員が受講し職員に普及させています。
- 地域との関係では、地域の防災訓練での協力体制の他、近隣の方から冬瓜やみかんをいただく等、良好な交流が来ています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階 もみじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念は「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げ、事業所内に掲示し全職員で理解共有しながら事業計画、年間の目標などを作り、その達成度も振り返りながら日々理念と計画に沿った介護支援に努めている。	介護理念「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げています。理念は入職時のOJTで伝えている他、職員の目に留まるよう「やすらぎの杜職員の心得」と共に職員トイレに掲示しています。職員の入れ替わりは少なく、利用者と職員が日々元気で笑顔でいられることを大切に、支援しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コーラスボランティアや中学生の職場体験の受け入れも行い、交流をはかっている。夏祭りや敬老会、クリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深めている。また、地域にあるNPO法人のサロンを借りてイベントを開催している。	町内会に加入し、民生委員や町内会長から地域の情報を得ています。肉や野菜は地域の小売店から購入しています。地域の方からの介護相談や、「やすらぎの杜」に特化した災害訓練を地域でしていただく等、地域との関係性を大切にしています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、相談を受ける方や実際に介護に携わっている方が、やすらぎの杜の存在を知っていただけるようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、町内の方地域包括、ご利用者、ご家族代表が参加。年に一度は市の担当職員も参加。施設長、管理者、事務長がホームの状況を報告しながら意見交換し、施設や介護の向上を目指している。（今年度は書面開催）身体拘束の報告、災害時の対応についても協力して頂いている	町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表の方の参加で、2ヶ月に1回開催しています。年1回は市の職員も参加しています。事業所の活動報告・身体拘束・災害時の対応等について電話で報告し、意見をいただき、サービスの向上に活かしています。（市には書面報告）	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、疑問点は常に問い合わせ確認するようにしている。特に転倒事故等の特変があった時には速やかに担当課に報告し、連携をとっている。	運営推進会議に市の担当者と地域包括支援センター職員の参加があり、また日頃から疑問点は問い合わせ確認するなど、連携を取っています。研修の案内をいただき、リモートや対面で参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容や弊害について掲示し、研修等を行い、徹底するようにしている。日中は玄関も原則開錠し、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ない場合には、ご家族と連携をとり、ミーティングで話し合いをしながら改善に向けて速やかに対応するようにしている。	身体拘束の弊害について掲示し、事例検討しながら研修を行い、外部研修を受けた職員が事業所で報告をするなど、徹底するようにしています。マニュアルを完備し、運営推進会議の中でも話し合っています。年1回、自己点検シートを用いて確認し、身体拘束のないケアに努めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つことを心掛け、虐待の気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、ミーティングにおいて、確認、改善すべき点の話し合いをしている。	虐待行為の弊害についても、毎年研修を行い、虐待のないケアを徹底しています。マニュアルを完備し、運営推進会議の中でも話し合っています。年1回、自己点検シートを用い（管理者用・職員用）振り返りを行い、ミーティングで話し合っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を徹底し、研修参加も積極的に促している。現在、成年後見人を必要とする人はいないが、今後必要が生じた場合には、よく話し合いながら進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正等、変更となった場合も、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう説明し、ご理解、ご納得頂いたうえで必ず同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に重要事項、運営規定に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っている。面会に来られた時や家族会を通し、利用者の暮らしぶりや変化をお知らせし、意見、要望等を聞いてケアプランに反映できるようにしている。外部評価のアンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。	利用契約時に、重要事項・運営規定に記された苦情相談窓口と対応の説明を行っています。面会時や夏祭りに合わせて開催される家族会を通し、話を伺っています。何かあれば、管理者が電話やメールで家族と連絡を取り、意見や要望をお聞きし、運営に反映させています。行事の写真と共に、近況報告を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で日々の気づきや意見、提案を自由に述べられるよう心がけている。日頃から気軽に話せる関係を作る努力をしており、個人面談でも随時意見を聞くようにしている。また必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けている。	1日2回の申し送りと、月1回のミーティングで職員の話聞いています。利用者のケア、業務に関する話は、随時行っています。個人面談でも意見を聞くようにしていますが、何かあったときには、その都度話を聞いています。経験の長い職員が多く、風通しの良い職場環境を心掛けています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤時間数を加味して一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、状況により期末手当も支給している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心がけている。	勤務表作成時に、休みの希望を聞き対応しています。就業規則があり、社会労務士と随時見直しも行っています。コロナ禍での臨時出勤には臨時手当を支給するなど、職員のモチベーションアップも心掛けています。キャリアアップを取り入れ、職員にも周知しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加する機会を持ってもらい、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえよう働きかけている。資格のない職員には、基礎研修の受講を推進している。	キャリアアップシートで仕事の習熟度を把握し、年間研修計画を立て、足りない部分を補う様学んでいます。資格のない職員には、グループホーム協議会の研修等で、基礎研修の受講を推進しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のGH協議会を通じて勉強会等で他事業者と交流している。近隣のGHとの話し合いの機会も増えてきた。職員も他の事業所との交流研修に参加する事で、他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。（現在はコロナで中止）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。できる限りご本人やご家族が安心して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、話し合いを重ねながらご家族の悩みや要望をできるだけ汲み取っていただけるよう努め、更に、電話等によりその人に合った介護ができるようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の様子等をお知らせするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHとご本人のマッチングを重要視している。GHに入る事が本当にご本人のためになるのか、在宅や特養等のサービスと比較したうえでご家族とも話し合い、納得していただいたうえで入居を検討して頂くように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、花の水やり、プランターでの野菜作り、カレンダー作成等を職員と共に行っていただくようにしている。職員とご利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても家族の絆を強く持って頂きたく、自由な面会を心掛けている。現在はコロナ禍で、面会も制限させて頂いているが、電話等で自由にお話ができるようにしている。最近は携帯電話を持って入居される方も増えてきた。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないように、ご友人等の訪問も受け入れてきた。お墓参りや外泊をされる方もいて、ご家族や縁ある方との関係を保って頂けるよう働きかけてきた。コロナ禍で外出や外泊がままならない状況であるが、電話、手紙等で関係をつなげている方もいる。	これまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう、支援しています。家族や友人等の訪問を受け入れてきましたが、現在は事前に予約を取っていただき、玄関先でパーティーション越しに会っていただいています。携帯電話をお持ちの方は、家族や友人と話されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同志が関わりを持てるよう席順も配慮している。大人数掛けのソファも増やし、自室に閉じこもらず、できるだけ共有フロア等で過ごしてコミュニケーションを図れるように働きかけている。ご利用者同士でビデオ、カラオケ等も楽しんでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族等と偶然お会いする事もあり、その後の様子をお伺いしている。時には入居希望者をご紹介下さる事もあり、信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞くようにしているが、入居後も時間を見つけて一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。又、仕草や表情から思いをくみ取り、その人に合ったケアプランを作成し、支援に努めている。	入居時に、本人や家族に今までの生活歴や暮らしぶりをお聞きしています。得られた情報からある程度その方を把握し、入居後もお話しする機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めています。希望や意向を出される利用者は多く、その方に合った介護計画を作成し、支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを本人やご家族に聞き、ミーティング等で共有している。入居前に利用していた訪問リハビリを継続されている方も多し。又、楽しみにしていた新聞や雑誌の購読を継続されている方もいる。野球観戦が好きな新入居の方は、ケーブルTVの設置をされた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも申し送りをしっかりするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネは職員から情報を収集したり、直接利用者と触れ合って介護計画を作成。ご家族が来所された折には、できる限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、ご家族や医師と連携をしっかりと取るよう努め、より良い介護計画の作成を心掛けている。	入居時にアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、1ヶ月ほど様子を見ています。その後は、ケアマネジャーが職員や本人、家族から情報を収集し介護計画の見直しをしています。月1回のミーティング内で、ケアカンファレンスを開催し、見直しの必要な方を中心に話し合っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かくきろくしている。申し送りやミーティングの際には、其れをもとに、カンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアは行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっている利用者もおり、当ホームでできる事などを説明し、対応については、ご家族、医師と協議、同意したうえで取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携を取り、外出の際の車椅子の貸与等、協力していただいたり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。町内のコーラスボランティアが、毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみになっている。（現在はコロナで中止）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、ご本人やご家族の希望で他の医師に受診する事も可能である。現在、内科2医院、歯科2医院、精神科1医院、と連携している。緊急時には、まずかかりつけ医と連携をとり、総合病院へつなげて頂くなど、スムーズに対応して頂いている。	契約時に協力医療機関について説明を行い、家族の意向を尊重して主治医を決めていただいています。協力医は現在、内科2医院、歯科2医院、精神科1医院と連携しています。他科への通院については、原則家族対応としていますが、現在はコロナ禍の影響で事業所対応としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、協力医との連携は密であり、すぐに対応して頂いている。訪問リハビリを受けている利用者が増えており、適切な受診ができるよう利用者の状況を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させていただき、状況を把握するように努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が少しでも命を長らえて頂くことが介護士の務めであると考えている。ターミナルケアは行っていないが、重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対しては、ホームでできる事、できない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。ご家族との話し合いで、状況によって特養や療養型病院への転移も支援している。	入居時に、重度化した場合について話をしています。リフト浴の設備がないため、家族の希望があれば、特養への転移も支援しています。条件や主治医の診断で可能な場合には、ターミナルケアを行う場合もあり、延命措置についても同意書をいただき、変更も可能なことを説明しています。職員は勤務の長い方が多く、自然に寄り添うケアが行われています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応に当たれるよう訓練をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動通報設備を設置、防災倉庫には飲料水、食料品、リハパン等の備蓄をしている。定期的に消火訓練や通報訓練を行い、災害時に備えている。又、ホーム内の異常を知らせるパトライトを設置し、近隣にいち早く異常を知らせる事ができるようになった。地域との協力体制も強化している。	火災を中心に年2回の防災訓練を実施しています。定期的に通報訓練や消火訓練を行い災害時に備えています。事業所内で異常があった場合には、近隣に知らせるパトライトを設置しています。地域の災害訓練でやすらぎの杜に特化した訓練をしていただけるなど、協力体制も強化しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、達人である事を常に念頭に置いて言葉遣いにも留意して行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、個人情報に留意し一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	職員の心構えにも、盛り込んでおり、常に利用者は人生の先輩であることを念頭においたケアに臨んでいます。介護しながら学ばせていただいているという意識を持ち、誇りやプライバシーを損ねない対応を基本姿勢とするよう、職員にも折に触れて話しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等ではご利用者に寄り添い、話しかける時間をできるだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族に電話を掛けたりする事が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安をつけているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるように支援している。昼間は殆どの方が共有フロアで過ごされているが、読書の好きな方や自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性には美容師さんを招き、整髪して頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。正月、ひな祭り、土用の丑の日、敬老の日など、時節に合わせた食事を作ったり、誕生日には手作りケーキでお祝いするようにしている。コロナ禍で外食ができないが、敬老の日にはちょっと豪華なお弁当で楽しんで頂いた。	法人の栄養士が作成したメニューを基に、地域のお店から野菜・肉などを購入し、職員が調理しています。日頃の会話の中から、利用者の食事の希望を把握し、メニューに活かしています。調理や配膳、片付けが出来る方には、お手伝いをしていただいています。誕生日には、手作りのケーキでお祝いし、敬老の日には豪華なお弁当を楽しんでいただきました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分の摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。自力ではあまり食が進まない方には、食事介助をして少しでも食事量を増やして頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには本人によるケアの後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	19	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声掛けや援助をしながら、できる限り自立を促している。トイレでの排泄がうまくできない方に対しては、声かけや誘導をして失敗を少なくするよう支援している。夜間、オムツを使用する方も、日中はリハパンでトイレでの排泄支援を行っている。	全員の排泄チェック表を付け、一人一人の排泄パターンを把握しています。その人に合わせた声掛けや援助をしながら、トイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っています。失敗の続く場合には、ミーティングで話し合い、支援の方法を検討しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れたり、体操等で身体を動かすようにしている。長期の便秘に対しては、医師の指導により服薬等の便秘対策を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であり、大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くようにしている。入浴は清潔保持のみではなく、打ち身、あざ、湿疹等を発見できる機会であり、大事にしている。季節に合わせて、ゆず湯、菖蒲湯等入浴を楽しんで頂けるようにしている。	週2回を基本に入浴できるよう、支援を行っています。バイタルのチェックと、本人の意思を確認し、ゆっくりと入浴を楽しめるよう、見守りながら入って頂いています。入浴拒否の方は、現在はいません。重度化した方には、職員2人対応か、もしくは清拭を行っています。また、季節のお風呂も楽しんでいただいています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう無理のない時間に起床して頂いている。又、日中は共有フロアにいる方が殆どであるが、読書やテレビが好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り支援している。状況の悪化や改善がみられない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、洗濯たみなど、できることをお手伝いして頂いている。ただ、ご利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。野菜や花の苗を植えて毎日水やりをしている方もいる。収穫できた時はとても喜んでいて、フロアの飾りつけの作品を作ったり、ぬり絵、カラオケ等を楽しめる方もいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方は、玄関前で外気浴をして頂いている。コロナ禍で外へ出る機会が殆どない為、玄関前のスペースで気分転換して頂いたりしている。又、歯医者に行った帰りに買い物等を楽しむ方もいる。	天気の良い日には近所を散歩するようにしています。散歩が無理な方には、玄関前で外気浴をしていただいています。コロナ禍前は、職員や事業所の車で、花見、菖蒲園、ミカン狩り等の外出支援を行っていました。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要な物がある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があれば買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけて頂いている。最近はお自分の携帯電話をお持ちになる方も増えてきた。手紙も自由にやり取りして頂いている。ホームに年賀状や手紙が届く方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアには、レクでの製作物や行事の際の写真を貼り出している。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾り等をしている。テレビやカラオケを楽しめるよう、ソファやテーブルの配置も工夫している。ベランダはナス等の野菜を栽培し、水やりを日課にして成長の様子を楽しみにしている方もいる。	共有フロアは、1,2階共に季節を感じて頂ける花を生けたり、四季折々の行事に合わせた飾りつけを行っています。リビングの窓は大きく、風通しの良い場所になっており、窓の外には紅葉などの季節の景色が楽しめます。玄関前やベランダでは季節の花や野菜を栽培し、利用者の楽しみにもなっています。空気清浄機を配置し、アルコール消毒も行い、環境に配慮しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには多人数が座れるようソファを設置し、気の合うご利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。ビデオやカラオケを楽しむ方もいらっしゃる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。今まで大切にしてきた鏡台やデスク、仏壇を持って来られる方もいる。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。又、行事の折に撮った写真も貼ったりしている。	居室には、介護ベッド・防災カーテン・エアコン・天袋が設置されています。入居時に、使い慣れたもの、好みの物を持ち込んでいただいています。仏壇、机と椅子、テレビやラジオ、人形等の大切にしてきた物を置き、居心地の良い居室になるよう支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、できる限りトイレでの排泄を継続していけるよう、サポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 やすらぎの杜（もみじ）

作成日 令和4年10月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤職員の募集を行うとともに、パート職員のキャリアアップをはかり、常勤職員に登用する。	1年
2	13	職員の若返りをはかる。	若手職員の増員を目指す。	若い人が働きやすい環境を整備し（賃金アップ、休業制度など）募集も行っていく。	1年
3	13	職員のスキルアップをはかる。	職員一人一人がより良い介護を目指す。	外部研修への参加や、資格のない職員には基礎研修の受講を推進し、スキルアップをはかる。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階 すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念は「笑顔のある生活を楽しむ」を掲げ、事業所内に掲示し全職員で理解共有しながら事業計画、年間の目標などを作り、その達成度も振り返りながら日々理念と計画に沿った介護支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コーラスボランティアや中学生の職場体験の受け入れも行い、交流をはかっている。夏祭りや敬老会、クリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深めている。また、地域にあるNPO法人のサロンを借りてイベントを開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある施設という立場で、施設内の見学ができる機会を作ったり、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、相談を受ける方や実際に介護に携わっている方が、やすらぎの杜の存在を知っていただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、町内の方地域包括、ご利用者、ご家族代表が参加。年に一度は市の担当職員も参加。施設長、管理者、事務長がホームの状況を報告しながら意見交換し、施設や介護の向上を目指している。（今年度は書面開催）身体拘束の報告、災害時の対応についても協力して頂いている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは、日頃から極力連携をとるようにし、疑問点は常に問い合わせ確認するようにしている。特に転倒事故等の特変があった時には速やかに担当課に報告し、連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容や弊害について揭示し、研修等を行い、徹底するようにしている。日中は玄関も原則開錠し、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ない場合には、ご家族と連携を取り、ミーティングで話し合いをしながら改善に向けて速やかに対応するようにしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つことを心掛け、虐待の気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。虐待に対する自己点検を行い、ミーティングにおいて、確認、改善すべき点の話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を徹底し、研修参加も積極的に促している。現在、成年後見人を必要とする人はいないが、今後必要が生じた場合には、よく話し合いながら進めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正等、変更となった場合も、ご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう説明し、ご理解、ご納得頂いたうえで必ず同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に重要事項、運営規定に記された苦情相談窓口と、その対応の説明を行っている。面会に来られた時や家族会を通し、利用者の暮らしぶりや変化をお知らせし、意見、要望等を聞いてケアプランに反映できるようにしている。外部評価のアンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で日々の気づきや意見、提案を自由に述べられるよう心がけている。日頃から気軽に話せる関係を作る努力をしており、個人面談でも随時意見を聞くようにしている。また必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤時間数を加味して一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが年末の寸志、状況により期末手当も支給している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心がけている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加する機会を持ってもらい、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえよう働きかけている。資格のない職員には、基礎研修の受講を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のGH協議会を通じて勉強会等で他事業者と交流している。近隣のGHとの話し合いの機会も増えてきた。職員も他の事業所との交流研修に参加する事で、他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。（現在はコロナで中止）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。できる限りご本人やご家族が安心して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、話し合いを重ねながらご家族の悩みや要望をできるだけ汲み取っていきけるよう努め、更に、電話等によりその人に合った介護ができるようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の様子等をお知らせするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHとご本人のマッチングを重要視している。GHに入る事が本当にご本人のためになるのか、在宅や特養等のサービスと比較したうえでご家族とも話し合い、納得していただいたうえで入居を検討して頂くように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、花の水やり、プランターでの野菜作り、カレンダー作成等を職員と共に行っていただくようにしている。職員とご利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても家族の絆を強く持って頂きたく、自由な面会を心掛けている。現在はコロナ禍で、面会も制限させて頂いているが、電話等で自由にお話ができるようにしている。最近は携帯電話を持って入居される方も増えてきた。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないように、ご友人等の訪問も受け入れてきた。お墓参りや外泊をされる方もいて、ご家族や縁ある方との関係を保って頂けるよう働きかけてきた。コロナ禍で外出や外泊がままならない状況であるが、電話、手紙等で関係をつなげている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同志が関わりを持てるよう席順も配慮している。大人数掛けのソファも増やし、自室に閉じこもらず、できるだけ共有フロア等で過ごしてコミュニケーションを図れるように働きかけている。ご利用者同士でビデオ、カラオケ等も楽しまれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族等と偶然お会いする事もあり、その後の様子をお伺いしている。時には入居希望者をご紹介下さる事もあり、信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族から今までの暮らしぶりを聞くようにしているが、入居後も時間を見つけて一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。又、仕草や表情から思いをくみ取り、その人に合ったケアプランを作成し、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを本人やご家族に聞き、ミーティング等で共有している。入居前に利用していた訪問リハビリを継続されている方も多し。又、楽しみにしていた新聞や雑誌の購読を継続されている方もいる。野球観戦が好きな新入居の方は、ケーブルTVの設置をされた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも申し送りをしっかりするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネは職員から情報を収集したり、直接利用者と触れ合って介護計画を作成。ご家族が来所された折には、できる限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、ご家族や医師と連携をしっかりと取るよう努め、より良い介護計画の作成を心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個人記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かくきろくしている。申し送りやミーティングの際には、其れをもとに、カンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアは行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっている利用者もおり、当ホームでできる事などを説明し、対応については、ご家族、医師と協議、同意したうえで取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携を取り、外出の際の車椅子の貸与等、協力していただいたり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。町内のコーラスボランティアが、毎月ホームを訪問してくださり、ご利用者の楽しみになっている。（現在はコロナで中止）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、ご本人やご家族の希望で他の医師に受診する事も可能である。現在、内科2医院、歯科2医院、精神科1医院、と連携している。緊急時には、まずかかりつけ医と連携をとり、総合病院へつなげて頂くなど、スムーズに対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、協力医との連携は密であり、すぐに対応して頂いている。訪問リハビリを受けている利用者が増えており、適切な受診ができるよう利用者の状況を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意を得た上で同席させていただき、状況を把握するように努めている。又、病院とは常に連携をとり情報交換や相談に応じている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が少しでも命を長らえて頂くことが介護士の務めであると考えている。ターミナルケアは行っていないが、重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対しては、ホームでできる事、できない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。ご家族との話し合いで、状況によって特養や療養型病院への転移も支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応に当たれるよう訓練をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動通報設備を設置、防災倉庫には飲料水、食料品、リハパン等の備蓄をしている。定期的に消火訓練や通報訓練を行い、災害時に備えている。又、ホーム内の異常を知らせるパトライトを設置し、近隣にいち早く異常を知らせる事ができるようになった。地域との協力体制も強化している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、達人である事を常に念頭に置いて言葉遣いにも留意して行動するようにしている。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、個人情報に留意し一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等ではご利用者に寄り添い、話しかける時間をできるだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族に電話を掛けたりする事が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安をつけているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるように支援している。昼間は殆どの方が共有フロアで過ごされているが、読書の好きな方や自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性には美容師さんを招き、整髪して頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けができる方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。正月、ひな祭り、土用の丑の日、敬老の日など、時節に合わせた食事を作ったり、誕生日には手作りケーキでお祝いするようにしている。コロナ禍で外出ができないが、敬老の日にはちょっと豪華なお弁当で楽しんで頂いた。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事、水分量を記録し、各ご利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分の摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。自力ではあまり食が進まない方には、食事介助をして少しでも食事量を増やして頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには本人によるケアの後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	19	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声掛けや援助をしながら、できる限り自立を促している。トイレでの排泄がうまくできない方に対しては、声かけや誘導をして失敗を少なくするよう支援している。夜間、オムツを使用する方も、日中はリハバンでトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ食事で予防できるよう、バナナやイモ類の食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れたり、体操等で身体を動かすようにしている。長期の便秘に対しては、医師の指導により服薬等の便秘対策を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であり、大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くようにしている。入浴は清潔保持のみではなく、打ち身、あざ、湿疹等を発見できる機会であり、大事にしている。季節に合わせ、ゆず湯、菖蒲湯等入浴を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう無理のない時間に起床して頂いている。又、日中は共有フロアにいる方が殆どであるが、読書やテレビが好きな方は居室で過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り支援している。状況の悪化や改善がみられない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の服用については、ご家族、医師と相談しながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、調理、洗濯たたみなど、できることをお手伝いして頂いている。ただ、ご利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。野菜や花の苗を植えて毎日水やりをしている方もいる。収穫できた時はとても喜んでいいる。フロアの飾りつけの作品を作って下さったり、ぬり絵、カラオケ等を楽しまれる方もいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方は、玄関前で外気浴をして頂いている。コロナ禍で外へ出る機会が殆どない為、玄関前のスペースで気分転換して頂いたりしている。又、歯医者に行った帰りに買い物等を楽しむ方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要な物がある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。通院や外出時には、希望があれば買い物もできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけて頂いている。最近はお自分の携帯電話をお持ちになる方も増えてきた。手紙も自由にやり取りして頂いている。ホームに年賀状や手紙が届く方もいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアには、レクでの製作物や行事の際の写真を貼り出している。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾り等をしている。テレビやカラオケを楽しめるよう、ソファやテーブルの配置も工夫している。ベランダはナス等の野菜を栽培し、水やりを日課にして成長の様子を楽しみにしている方もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには多人数が座れるようソファを設置し、気の合うご利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。ビデオやカラオケを楽しむ方もいらっしゃる。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。今まで大切にしてきた鏡台やデスク、仏壇を持って来られる方もいる。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。又、行事の折に撮った写真も貼ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、できる限りトイレでの排泄を継続していけるよう、サポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 やすらぎの杜（すみれ）

作成日 令和4年10月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職員環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着を目指す。	常勤職員の募集を行うとともに、パート職員のキャリアアップをはかり、常勤職員に登用する。	1年
2	13	職員の若返りをはかる。	若手職員の増員を目指す。	若い人が働きやすい環境を整備し（賃金アップ、休業制度など）募集も行っていく。	1年
3	13	職員のスキルアップをはかる。	職員一人一人がより良い介護を目指す。	外部研修への参加や、資格のない職員には基礎研修の受講を推進し、スキルアップをはかる。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。